

# 「2015年 構造設計Q&A集」正誤表

平成28年1月25日作成



平成28年9月20日追加

平成28年1月25日

章	ページ	行数・図表番号	誤	正
1章	p.4	上から1行目	上記に加えて10年に1回程度の大雪(0.7S1)が長期間作用する場合の安全性も検討する。	上記に加えて10年に1回程度*の大雪(0.7S1)が長期間作用する場合の安全性も検討する。 ※10年に1回程度： 基準解説書では、多雪区域の積雪状況として3カ月程度の継続期間を想定した数値と解説されている。
	p.4	下から16行目	この検討に用いる風圧力(W)は、地域や地表面の粗度区分により決められている。	この検討に用いる風圧力(W)は、建物形状に加えて地域や地表面の粗度区分により決められている。
	p.11	表1-9	表1-9 地表面の粗度区分	表1-9 地表面の粗度区分(イメージ)
	p.18	上から7行目	Fes・Ai分布	Ds・Fes・Ai分布(Qun分布)
2章	p.32	下から10行目	昭55建告第1790号の式	昭55建告第1791号の式
	p.37	下から8行目	短期荷重	短期応力
	p.54	下から7行目	平12建告第1457号第7号第一号イ	平12建告第1457号第10号第二号イ
		下から2行目	告示では	削除
		下から1行目	$Tc = \frac{4h}{Vs} = 4h\sqrt{\frac{p}{Gs}}$	$Tc = \frac{4h}{Vs} = 4h\sqrt{\frac{\rho}{Gs}}$
	p.55	上から2行目	$Td = 2\pi\sqrt{\frac{m}{k}} = \sqrt{\frac{ph/2}{G/h}} = \sqrt{2}\pi h\sqrt{\frac{p}{Gs}}$	$Td = 2\pi\sqrt{\frac{m}{k}} = \sqrt{\frac{\rho h/2}{Gs/h}} = \sqrt{2}\pi h\sqrt{\frac{\rho}{Gs}}$
	p.60	上から4行目	平成12年の建築基準法改正	2000年の建築基準法改正
		下から10行目	また、木材の性質は・・・	(1行あける) また、木材の性質は・・・
	p.66	下から1,3,5行目	1.35N/mm <sup>2</sup>	1.35 <sub>a</sub> N/mm <sup>2</sup>
	p.75	上から2行目	ALC板	ALC版
	p.97	上から12行目	(単位:kN)	(単位:kN、mm)
	p.98	上から2行目	表の各セルの単位 (KN)	表の各セルの単位 (kN)
	p.109	上から4行目	角型断面柱	角形断面柱
上から13行目		角型鋼間柱	角形鋼管柱	
p.153	上から3行目	L型	L形	
	上から6行目	十字型	十字形	

章	ページ	行数・図表番号	誤	正
		上から 7 行目	ト型及び T 型、L 型及び Γ 型	ト形及び T 形、L 形及び Γ 形
2 章	p.155	上から 14 行目	カット長さ	カットオフ長さ
	p.178	上から 13 行目	5 倍を越える	5 倍を <u>超</u> える
	p.220	上から 10 行目	徐した	<u>除</u> した
	p.240	上から 5 行目	柱梁による・・・	柱は <u>り</u> による・・・
		上から 12 行目	開口面積の単純和とする場合	開口面積の単純和とする <u>方法</u>
		下から 1 行目	鉄筋コンクリート構造計算基準	鉄筋コンクリート構造計算 <u>規</u> 準
	p.243	上から 8 行目	軸方向変形を考慮する必要な場合が	軸方向変形 <u>の考慮が</u> 必要な場合が
3 章	p.271	下から 7 行目 (3-1 式)	$= D_s \cdot F_{es} \cdot Z \cdot R_t \cdot A_i \cdot C_0$	$= D_s \cdot F_{es} \cdot Z \cdot R_t \cdot A_i \cdot C_0 \cdot \sum_{j=1}^n w_j$
		下から 1 行目	$C_0$ : 標準せん断力係数で、保有水平耐力計算では 1.0 以上	$C_0$ : 標準せん断力係数で、保有水平耐力計算では 1.0 以上 <u><math>w_j</math> : 各階の固定荷重と積載荷重の和</u>
	p.274	上から 4 行目	New-Mark の式	<u>N. M. Newmark</u> の式
	p.276	表 3-15	構造計算の厳格化 (2006)	構造計算の厳格化 ( <u>2007</u> )
	p.277	図 3-24	基礎バネによる建築物周期の課題評価	基礎バネによる建築物周期の <u>過大</u> 評価
		下から 2 行目 (3-5 式)	$\gamma_0 = \sqrt{\frac{\ell \cdot h_0 \cdot \ell_0}{h \cdot \ell}} \geq 0.4$	$\underline{r}_0 = \sqrt{\frac{h_0 \cdot \ell_0}{h \cdot \ell}} \geq 0.4$
		下から 1 行目 (3-5 式)	$\gamma_2 = 1 - \max(\gamma_0, \ell_0/\ell, h_0/h)$	$\underline{r}_2 = 1 - \max(\underline{r}_0, \ell_0/\ell, h_0/h)$
	p.282	上から 10 行目	に応じて(4.3-1)式および	に応じて(4.3-2)式および
	p.288	上から 10 行目	への字型平面形状の建築物では、	への <u>字形</u> 平面形状の建築物では、
	p.288	図 1	(並進行の変形)	( <u>並進形</u> の変形)
		図 1	(b) への字型平面	(b) への <u>字形</u> 平面
	p.301	図 2 の(b)	壁筋の降伏等により耐震増大	壁筋の降伏等により <u>耐力</u> 増大

平成 28 年 9 月 20 日追加

章	ページ	行数・図表番号	誤	正
1 章	p.13	図 1-5	⊖ アンカーボルト断面積の 総和 $\geq$ 柱断面積 $\times 92$	⊖ アンカーボルト断面積の 総和 $\geq$ 柱断面積 $\times 0.2$
	p.13	図 1-5	 埋込み形式柱脚	 埋込み形式柱脚

章	ページ	行数・図表番号	誤	正
2章	p.142	図 4	反極点高さ (mm)	反極点高さ <u>比</u>
	p.143	図 6		
	p.149	下から 8 行目	$M=QL$	$M=Q \cdot \ell$
	p.149	下から 4 行目	Z:鉄筋の断面係数(mm <sup>3</sup> )= $\pi D/32$	Z:鉄筋の断面係数(mm <sup>3</sup> )= $\pi \underline{D^3}/32$
	p.209	上から 2 行目	$T_0=b_T D_T(1.15)f_s/3$	$T_0=b_{\underline{T}}^2 D_T(1.15)f_s/3$
	p.211	図 3	補強あばら筋 11-D13	補強あばら筋 <u>D13@100 以下</u>